

# 賢い患者に なるために

## ①治療をすれば終わりではない

## ②手術後の人生を一緒に歩める医療を

重い病気になると、どうしても、そのことが人生の真ん中に来てしまいます。がんの場合はなおさらです。無理もありません。一生の問題なのですから。

でも、ちょっと考えてみてください。乳がんを治療している東京都在住の畑野陽子さん(48)は告知の後、セカンドオピニオンを求め、さらに友人の勧めでサードオピニオンを聞いて、その病院で手術を受けました。なぜ三つ目の病院だったのでしょうか。

「ところが、三つ目の病院の医師はこう言ってくれたので、『手術後の人生と一緒に考えよう』。ふと気づきました。そうか、治療後も人生は続くんだ」と。

「手術も放射線治療も抗がん剤治療も、どの病院もそう変わらないうまいけません。それに、乳がんは再発の心配がなくなりません。でも死ぬ日まで人生は続きます。一つ目、二つ目の病院では、その後の人生のビジョンが描けなかったんです」

人生と治療のバランスを。畑野さんはうまくとれたようですが、患者によって事情は異なります。その人にあったペースを見つけなければなりません。これを患者だけで解決するのは難しい。どうしても目が「治療」に向けてしまいがちです。(続きはアスパラクラブをすれば終わり)ではありません。患者さんと二人三脚。それが「患者を診る」医療の役目です。(続きはアスパラクラブ

### 上野直人 医師



うえの・なおと 米テキサス州立大M.D.アンダーソンがんセンター准教授。89年、和歌山県立医大卒。米ピッツバーグ大付属病院などで一般内科研修。98年に同センターへ。米内科専門医、米腫瘍内科専門医。